

## 第4回検討委員会 グループディスカッションでの意見

## 暮らし・地域づくり・防災

- ・サービス、利便性のあるプログラム
- ・老人ホームではなくシェアハウスのような暮らし方
- ・リタイア後の活躍の場
- ・地域のコミュニティで自分の役割を見つける
- ・集落を行き来して別の集落で暮らしてみる
- ・集住
- ・世代を超えて集える場づくり
- ・得意分野を子供達に教えられる環境をつくり、大人と子供の接点をつくる（ロールモデルを増やす）
- ・ランニングやウォーキングを家族や友達と頻繁にする→道路と歩道が整備される
- ・田んぼに行くときに他人の家を1軒回る（隣歩）
- ・町内会単位での多世代交流
- ・高齢者と若い人との中間をつなぐ役割を考える
- ・地域の中で情報を出す、集約する人材の育成
- ・3市の特色を生かしたそれぞれの地域づくり
- ・ご近所づきあいの強化（防災、子育て、見守り）
- ・子供達が身近な自然の中で遊べる環境づくり
- ・まちぐるみで子供を遊ばせる
- ・地域防災活動に参加する（避難経路の確認、消火訓練など）
- ・島内で電気、ガス、水道などのライフラインを確保する
- ・楽しく学ぶ防災を考えて地域に広めていく
- ・地域での役割として防災活動をしていく
- ・自然を生かして防災、減災（Eco-DRR）を推進する
- ・公民館の機能として地域防災を加える（子供達と一緒に防災食の調理実習、火おこし体験、避難体験など）

## 教育・人づくり

- ・淡路島ならではの魅力を取り入れた教育プログラムの推進
- ・学校教育の中で地域の先生など歴史や暮らしを伝えていける授業を取り入れる
- ・学校行事への積極的な参加（自身のスキルを子供達に伝える）
- ・放課後の子供の活動を地域住民で考える機会をもつ
- ・地域と学校のつながりを深め、地域ごとで教育にたずさわる
- ・学ぶことの価値を示す。島外や海外の大学への進学を促す→いつか帰ってきて地域を支える人に
- ・寺子屋的な場、人的資源発掘
- ・小さな学び場をつくる
- ・他者を尊重することをしっかりと学ぶ
- ・地域の中で高齢者を支えるための人材確保（認知症サポーター）
- ・伝統芸能を学び伝える
- ・野菜や魚の知識をホテルや料理人に教えて欲しい

## 交通

- ・AIを使いこなす
- ・できる限り公共交通を利用する
- ・ウーバー（白タク）の実現 淡路島ヒッチハイク条例
- ・公共交通淡路島特区
- ・車社会の淡路→運転できる人が出来ない人を運ぶ
- ・路線活用の助け合い（平日は住民、休日は観光者）
- ・シェアカーの導入
- ・居住地域内を徒歩で移動してみる
- ・各家で小さな交通をかまえる
- ・地域内の移動手段（小さなコミュニティバスのような）

## 経済・仕事

- ・働く姿を見せる
- ・農業（家業）の継承（親から子へ）
- ・地場産業の物や技術を暮らしに取り入れる
- ・島で採れた野菜や魚を食べる
- ・島の人の生活を支え合うような仕事を
- ・農業資源の継続的な維持（手法の伝達）
- ・島で加工された食品を食べる
- ・観光者と接点を持つ、感じる
- ・暮らしの教科書をつくる
- ・若者が都市へ流出しなくても大丈夫な地域内経済、まちづくりをみんなで考える場をつくる
- ・食の豊かさを伝えるスピーカーを増やす
- ・島の一押し産品を発信する
- ・循環する人、モノ、仕事
- ・農業振興地域の更なる有効活用
- ・観光×農業、観光×漁業＝価値を高める
- ・多様な働き方、働き場所をつくる

## 観光・交流

- ・観光客と地域住民のよりよいつながり方、関係性を築いていく
- ・自然と建築のコラボ（海上コテージ、砂漠のホテル）
- ・観光×地域＝移住
- ・半分農業、半分〇〇の生活
- ・緩やかなつながりをもつ
- ・ええとこどりの島
- ・移住を促すために島民同士がやさしく、なかよく
- ・日本の文化を体験したい海外からのお客を満足させられるのは私たちの「普通の暮らし」
- ・世代、立場を超えた交流の場づくり（子～高齢者）
- ・海外人材を受け入れ国際感覚になれる
- ・移住者（若年世代）との橋渡し→コーディネーターがポイント
- ・デュアルライフからの移住の推進

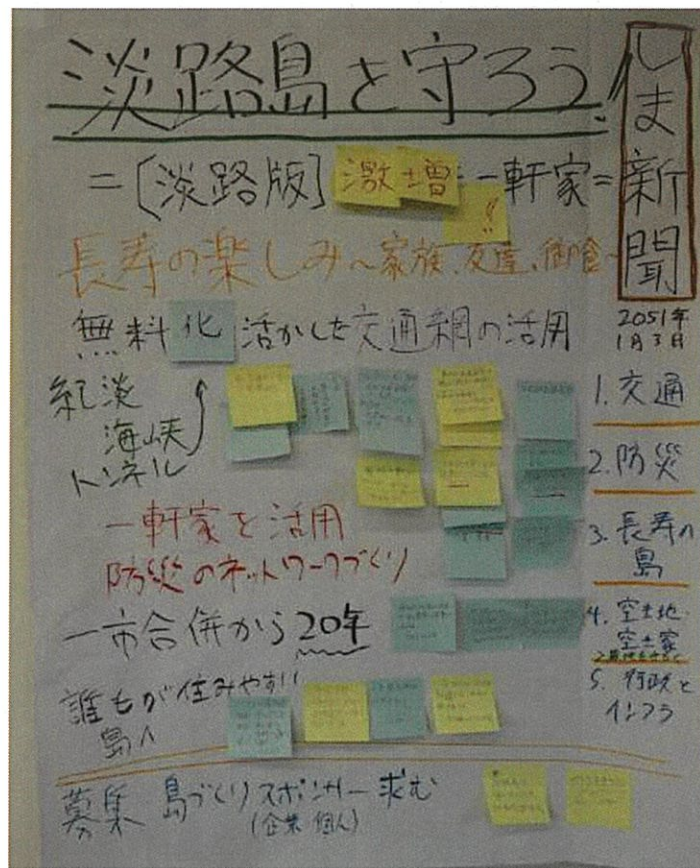
## 環境・資源

- ・自然への畏敬の念を忘れることなく地域資源を生かす
- ・農村、漁村の文化的景観と生物多様性はすぐに（いつか）豊かさを生み出す資源
- ・ブッシュクラフトができる島
- ・自然の豊かさを発信する
- ・山、里、川、海の自然環境の価値をよく知り、価値を損なわないような使い方を
- ・ドローンで見ても美しい島に
- ・エネルギーを消費することだけでなく使わないことを考える
- ・今ある自然の豊かさが持続していくような暮らし方を心がける
- ・その土地に何があるかを知る
- ・島の独自の資源を生かした観光産業が長い目で見て一番つよい（歴史、文化、自然）
- ・再生可能エネルギーに特化した施策
- ・空き家、耕作放棄地がたくさんあるので活用していく

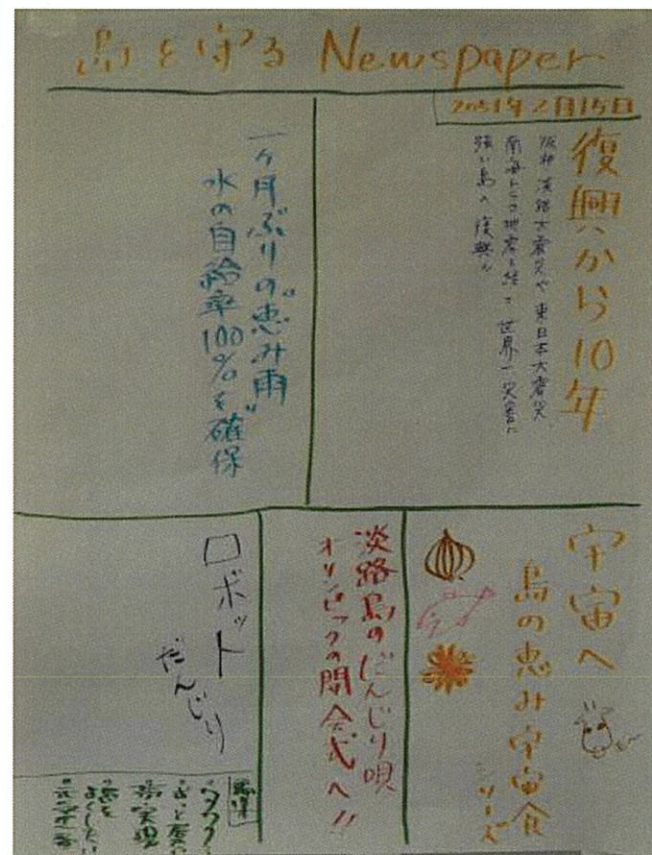


# 未来新聞

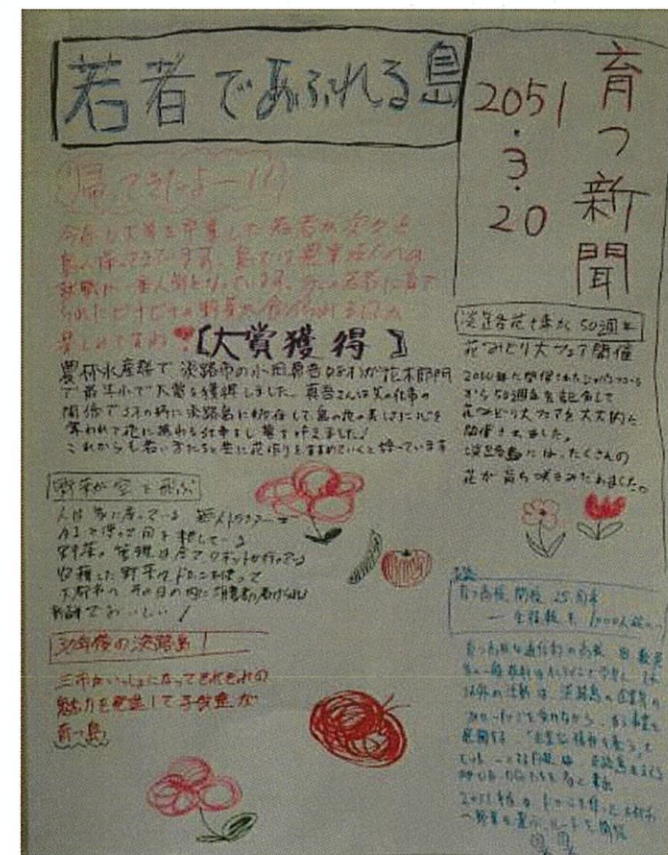
3月13日(土)  
淡路くにうみ夢フォーラム



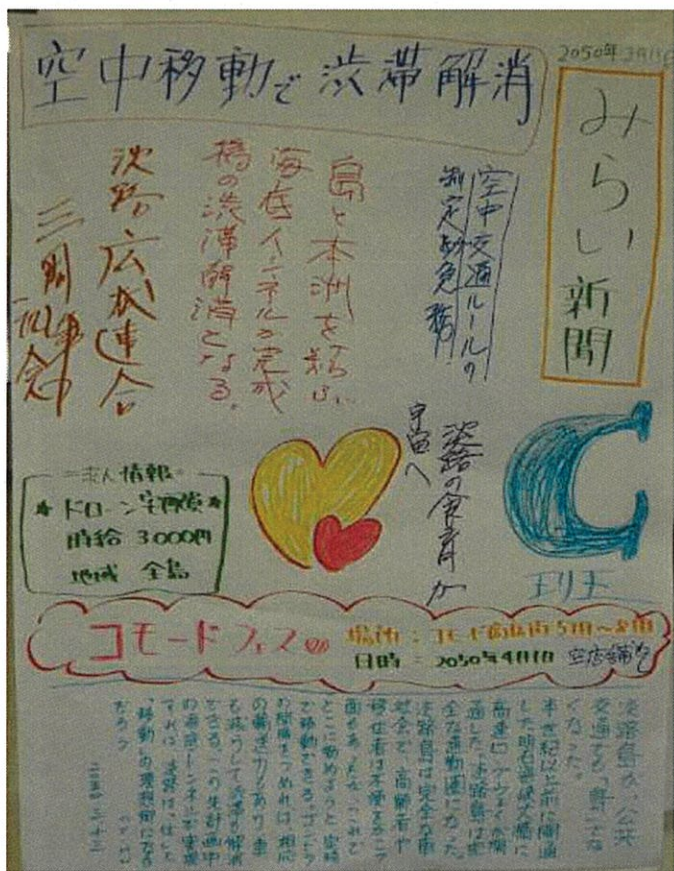
- ・紀淡海峡トンネルの開通で交通が無料化に
- ・一軒家を活用した防災ネットワーク
- ・誰もが住みやすい島に



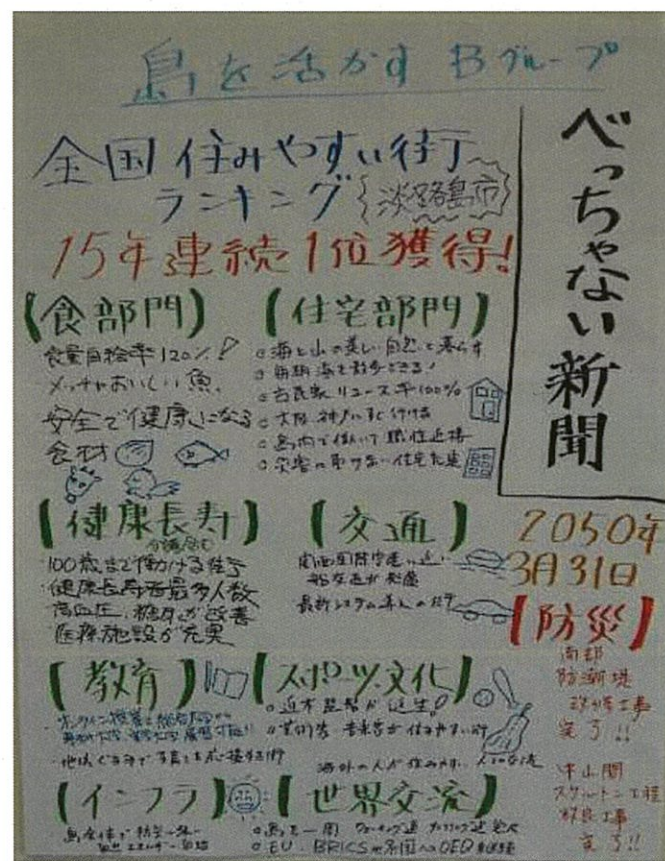
- ・震災を乗り越え世界一災害に強い島に
- ・淡路島の食が宇宙食へ
- ・淡路のたんじり唄がオリンピックの開会式に



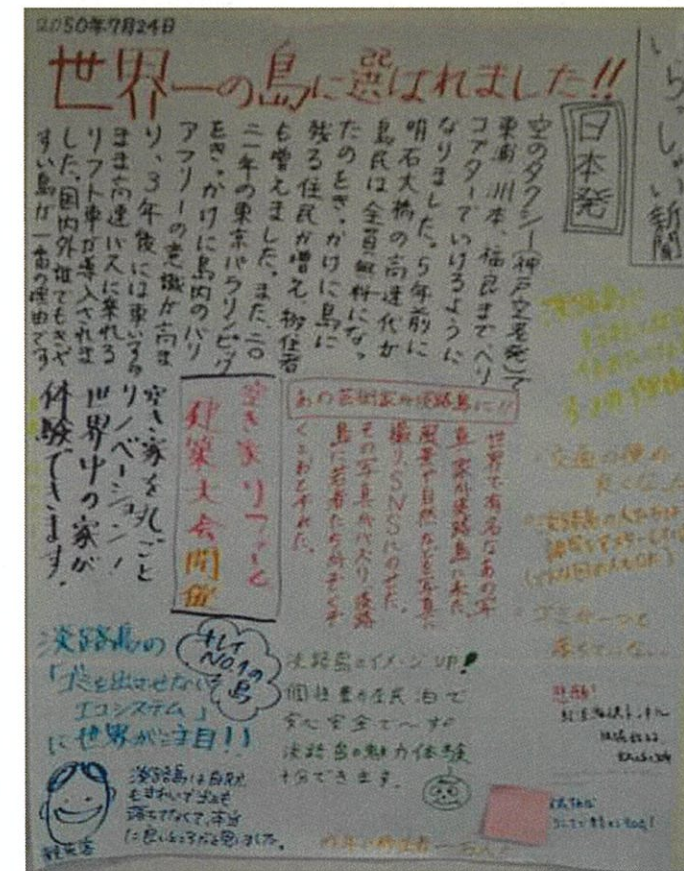
- ・島内で農業法人への就職が一番人気に
- ・先端技術農業が普及。新鮮野菜がドローンで大都市に。
- ・島を支える人材を育成する高校が開校



- ・空中移動や海底トンネルにより渋滞が解消
- ・淡路の食育が宇宙へ
- ・商店街が活性化。空き店舗なし。



- ・住みやすい街ランキング全国1位
- ・古民家リユース率100%
- ・食糧自給率120%。地産地消で健康に。



- ・空のタクシー、バリアフリーの高速バスが普及
- ・空き家リフォーム建築大会開催。世界中の家を体験
- ・ゴミを出させないエコシステムでゴミゼロの島